

1 家庭科・理科融合 調理実験「食品に含まれる成分を科学的視点から考えよう」

11月26日・30日 講師に（一般社団法人）日本乳業協会を招聘し、家庭科と理科の連携実験実習を1年1組～3組が行いました。たとえば、牛乳成分の違いを知るため3種類の牛乳を比べたり、バターを製造するために生クリームと牛乳の入った容器を振ってバターを作るなど、日頃何気なく口にしている食品を科学的視点から考えました。「家庭科を科学の視点から見ると、面白いことがたくさんあった。」「科学的な視点から考えると、より効率よく栄養が摂れたり、特性を生かした料理が作れることが分かった。今日の経験を日常の生活に生かしていこうと思う。」「いつも先生が言っている「家庭科は科学」という言葉の意味がよく理解できた。」といった感想が多く、楽しく面白く学ぶことができたようです。



2 【中学1年】洛北サイエンス 関西電力送配電株式会社特別講義「電気エネルギーと環境問題」

中学1年では、特別講義として12月8日（火）に関西電力送配電株式会社から飯山 裕貴氏と星野 稚花氏を講師としてお招きして、各講座1時間ずつの学習を行いました。送電についての学習では、実際に使われているケーブルに触れ、その重量感や頑丈性を体感することができました。また、発電の仕組みの実験やエネルギー問題に関わる講義から、私たちの生活を支える電気について考える機会となりました。



3 【中学1年】洛北サイエンス 琵琶湖博物館校外学習

中学1年生は12月10日（木）には滋賀県立琵琶湖博物館において校外学習を行いました。例年よりも短い滞在時間でのスケジュールだったため特別講義を受けることができませんでしたが、展示見学の内容でしたが、琵琶湖の歴史や特性、琵琶湖周辺の生物、琵琶湖と人との関わりなど、豊富な展示物の中から、それぞれ興味に応じて学ぶことができました。



4 梅棹忠夫生誕百周年記念 山極壽一前京都大学総長特別講義「人間を外から眺めるーウメサオ学の発想をゴリラ学から語る」

12月10日（木）5・6限に、山極壽一前京都大学総長特別講義を2年生サイエンス科の生徒が受講しました。これは京都大学教授や国立民族学博物館の初代館長を務めた京都第一中学校出身の梅棹忠夫生誕百周年記念事業として、日本の文化人類学をリードした梅棹氏の流れをくむ山極氏が、梅棹氏の母校の本校生に向け語るものとして企画されました。講義では梅棹氏の生き方や情報整理の技術に触れ、研究対象の捉え方を自在に変える「物事を捉える縮尺」や、他のものに例えて検討する「アナロジー（類推）」の力に、梅棹氏が優れていたと指摘し、新たな発想を持つことを生徒たちに促しました。また、ゴリラ研究の第一人者として、ゴリラと人間がもつ「共感性」に触れ、「社会」、「幸福」について、長年の研究成果をもとに熱心に語っていただきました。生徒は「ウメサオ学の根源は常に新しい事を探し出す姿勢にあることがわかった」、「人間・社会・幸福について改めて考えさせられた」など、多くの感銘を受けました。最後に、山極氏は「研究のエネルギーは『知らないこと』があること。良い問いを立て知らないことに興味を持ち、好奇心を広げることが大事」と話され、本校生に力強いエールを送っていただきました。



5 府立中高一貫教育校連携企画「サイエンスチャレンジ」

12月12日（土）の午後に府立中高一貫教育校連携企画「サイエンスチャレンジ」を実施しました。この企画は、府立附属中学校をもつ洛北高校、園部高校、福知山高校、南陽高校の4校で連携して実施したものです。各校の会場をzoomでつなぎ、オンライン同時開催で行いました。競技内容は、4人でチームを組み、マシュマロチャレンジを行いました。マシュマロチャレンジは、乾燥スパゲティ、マスキングテープ、ひも、マシュマロを使ってできるだけ高いタワーを作り、その高さを競う競技です。4校で合わせて20チームのエントリーがあり、熱戦を繰り広げました。来年もぜひ実施していきたいと思います。みなさんの参加をお待ちしています！

